

平成 24 年 3 月

産業廃棄物処理業景況動向調査結果について

[2011 年 7-12 月期]

公益社団法人全国産業廃棄物連合会

〔調査結果の概要〕

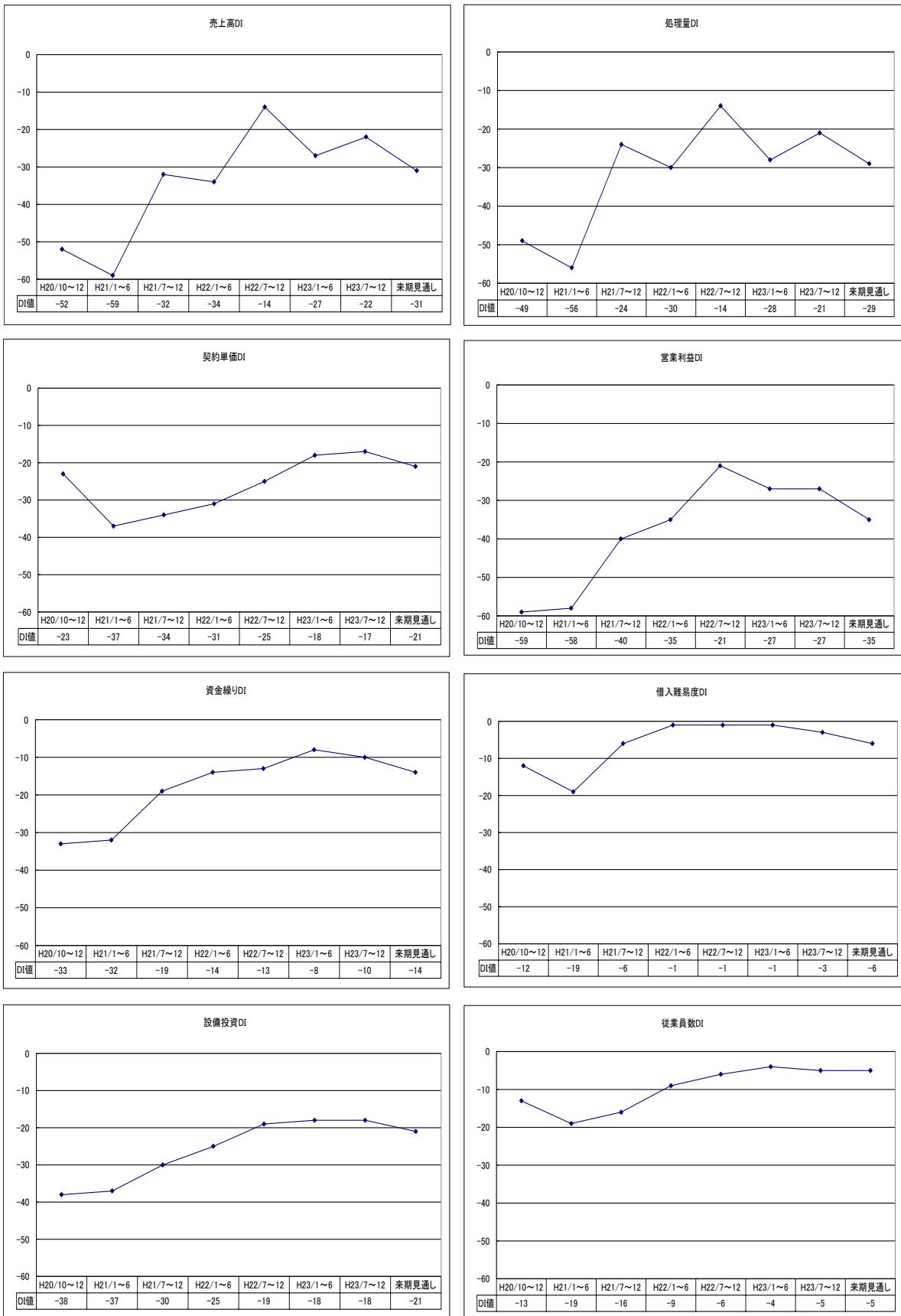
東日本大震災（以下、震災）により落ち込んだ生産活動は徐々に回復しつつあり、一部に復興需要もみられ、業況は持ち直しの動きが見られるものの、先行き悪化の懸念が強く、依然厳しさ続く。

- 2011 年 7-12 月期の景況判断を「悪化」とした企業は 47%で前回調査（2011 年 1-6 月期 54%）よりも 7 ポイント改善しているが、「好転」とした企業は 4%で前回調査（4%）と同水準となっている。景況判断 DI は▲43 となり、調査開始以来最も高くなっている。

以下、その他業況感 DI の内訳

- ・売上高 DI は▲22 で、2011 年 1-6 月期から 5 ポイント改善。
- ・処理量 DI は▲21 で、2011 年 1-6 月期から 7 ポイント改善。
- ・契約単価 DI は▲17 で、2011 年 1-6 月期から 1 ポイント改善。
- ・営業利益 DI は▲27 で、2011 年 1-6 月期と同水準。
- ・資金繰り DI は▲10 で、2011 年 1-6 月期から 2 ポイント悪化。
- ・借入難易度 DI は▲3 で、2011 年 1-6 月期から 2 ポイント悪化。
- ・設備投資 DI は▲18 で、2011 年 1-6 月期と同水準。
- ・従業員数 DI は▲5 で、2011 年 1-6 月期から 1 ポイント悪化。
- 今後の景況感 DI の見通しは、景況判断 DI で▲46 となり、3 ポイント悪化する見込みとなっている。
- 売上高の動向については、2011 年 7-9 月期で前年同期比（3 ヶ月平均）10.9%増、2011 年 10-12 月期で前年同期比（3 ヶ月平均）8.2%増となった。
- 処理量の動向については、2011 年 7-9 月期で前年同期比（3 ヶ月平均）3.8%増、2011 年 10-12 月期で前年同期比（3 ヶ月平均）1.5%増となった。
- 経常利益率については、平均値が 4.97%（前回調査 4.94%）となった。回答割合は「5%未満」37.7%、「5-10%未満」14.2%、「10%以上」14.1%となった。
- 経営上の問題点については、1 位の「需要の停滞」、2 位の「同業者相互の価格競争の激化」合わせて、5 割弱と高い割合となっている。
- 震災の影響を受けていると回答した企業は約 4 割となっている。
- 震災の影響により来期（2012 年 1-6 月期）の売上高が減少する企業は 84.8%となつた。
- 今後、設備投資の実施を予定している企業は約 4 割となった。設備投資の目的をみると、「合理化・省エネ投資」が 5 割と高い割合となっている。

※DI とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「好転」・「増加」したなどとする企業割合から、「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。



[調査の要領]

- 調査の対象：前回の調査（2008年10・12月期）で回答のあった全国の協会会員企業
- 調査の方法：郵送によるアンケート
- 調査期間：平成24年1月10日～2月20日
- 回答企業数：472社